
2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

2022 / 2 / 7 (月)

対前年比 売上は受託型売上減少により7%減、粗利率は対前年42%から45%へ上昇

3Qから4Qにかけて、映像・アニメ関連データサービスが成長牽引
ライセンス型への事業モデルへ転換後、来期初の全社売上拡大期へ
来期が売上反転攻勢期の元年に

クッキーレスの感性ターゲティング広告、ナショナルクライアント様10社とともに、
第4四半期にオープントライアル実施、来期事業化へ

Music AI関連で特別損失41百万円を計上（2022年2月7日取締役会決議）

特別損失の内容
(ソフトウェア除却)

経緯/背景

当該ソフトウェア
今後の利用見込み

MUSIC AI関連プロジェクト

対象	金額
システム関連	17百万円
データ関連	24百万円
合計	41百万円

契約していた
ヘッドフォンメーカーの
中国の生産に遅れ

プロジェクト再開時期が合理的
に見込めないと判断
いったん当該ソフトウェア除却
の判断へ

当該プロジェクト再開検討
および
別プロジェクトである
某自動車メーカーとの
来期の共同プロジェクトに
当該システム、データとも
活用予定

合理的かつ保守的な収益獲得見込みにおける観点および
来期の反転攻勢期の始まりへの影響を最小化にすることを目的に判断

- ✓ 売上は受託系事業の減少続く
- ✓ ライセンス事業が主力となる中で、粗利率の向上
- ✓ ライセンス売上比率は約70%に

(単位：百万円)

	前期 4-12月	当期 4-12月
売上高	676	627
原価	386	340
粗利益	289	287
粗利率	42%	45%
販売管理費	363	377
営業利益	▲74	▲90

◇ 受託系売上減

◇ 開発運用効率化による
原価率低減

◇ 4-6月 (第1四半期) 粗利率41%
7-9月 (第2四半期) 粗利率47%
10-12月 (第3四半期) 粗利率48%

◇ 研究開発・データ開発は前期並み

✓ 3Q売上の伸長は未達

✓ 一方でQonQの粗利率は上昇中、4Qもこの傾向もつづく見込み

(単位：百万円)

	当期 第1四半期	当期 第2四半期	当期 第3四半期
売上高	201	213	211
原価	118	112	108
粗利益	83	100	103
粗利率	41%	47%	48%
販売管理費	120	125	131
営業利益	▲37	▲25	▲28

——◇ 開発効率化による原価率低減

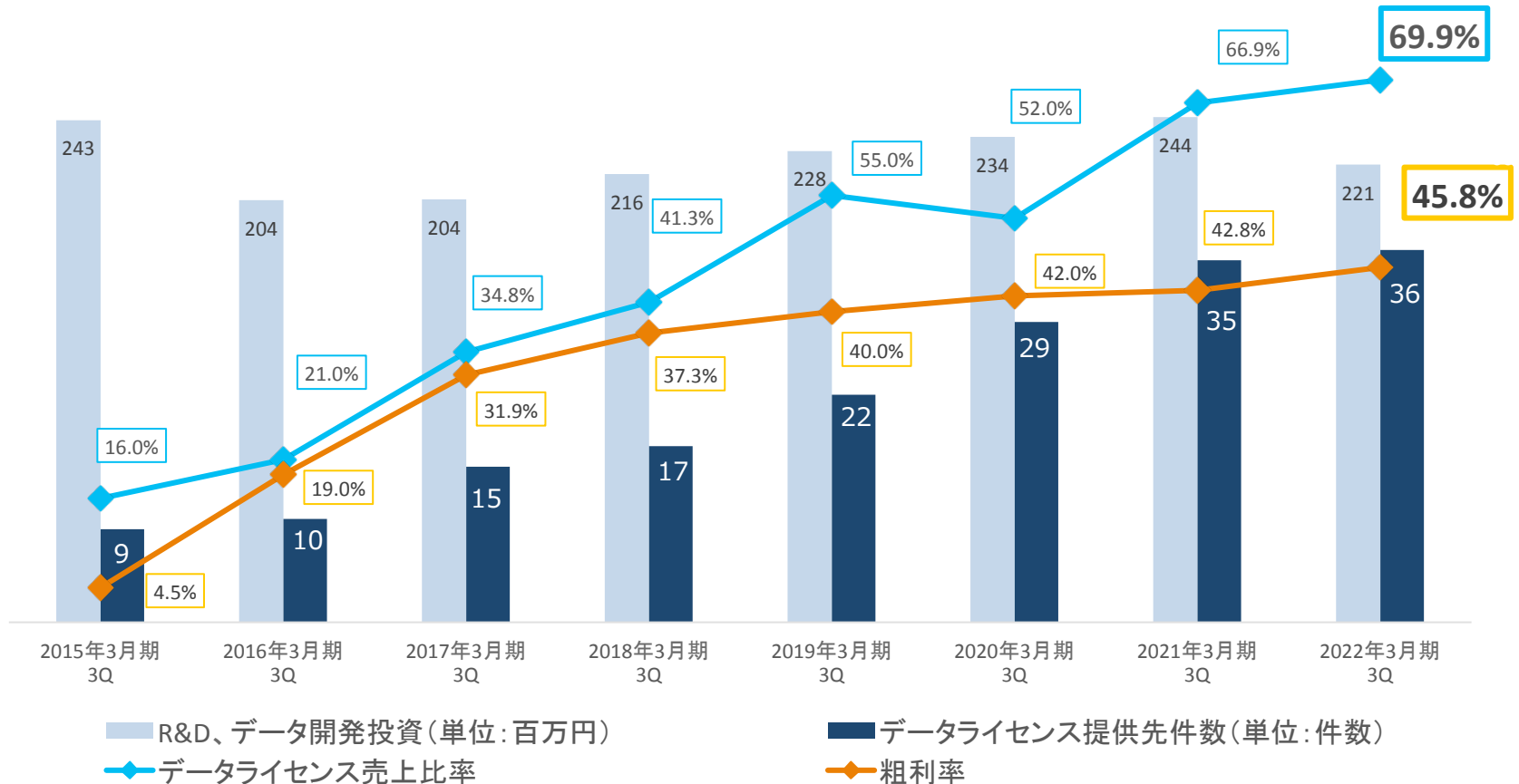
——◇ ライセンスビジネス展開による粗利率向上

——◇ 研究開発・データ投資はQonQ
ほぼ同規模

第3四半期決算ハイライト

- 投資状況とライセンス売上、粗利率推移

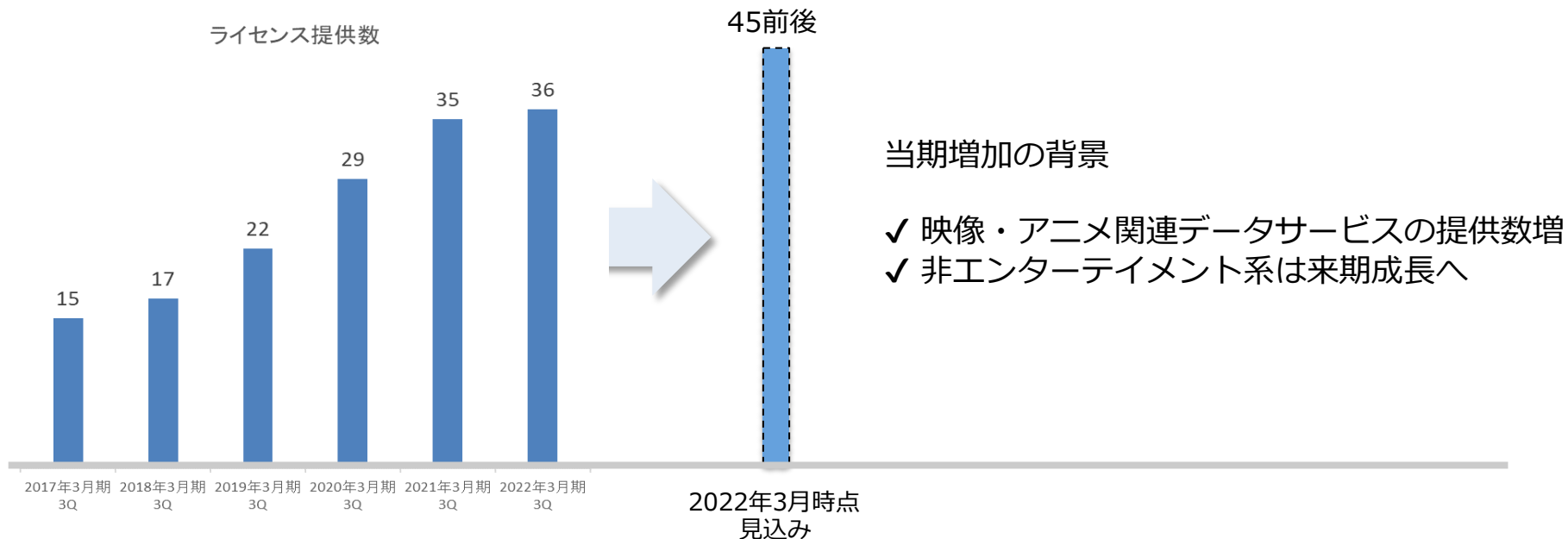
- ✓ 継続した研究開発・データ開発の投資を実施
- ✓ 中期目標であったライセンスモデル型企业への事業モデル転換には到達、事業基盤構築



✓ 今期目標であるライセンス取引先数65ライセンスに向けた状況

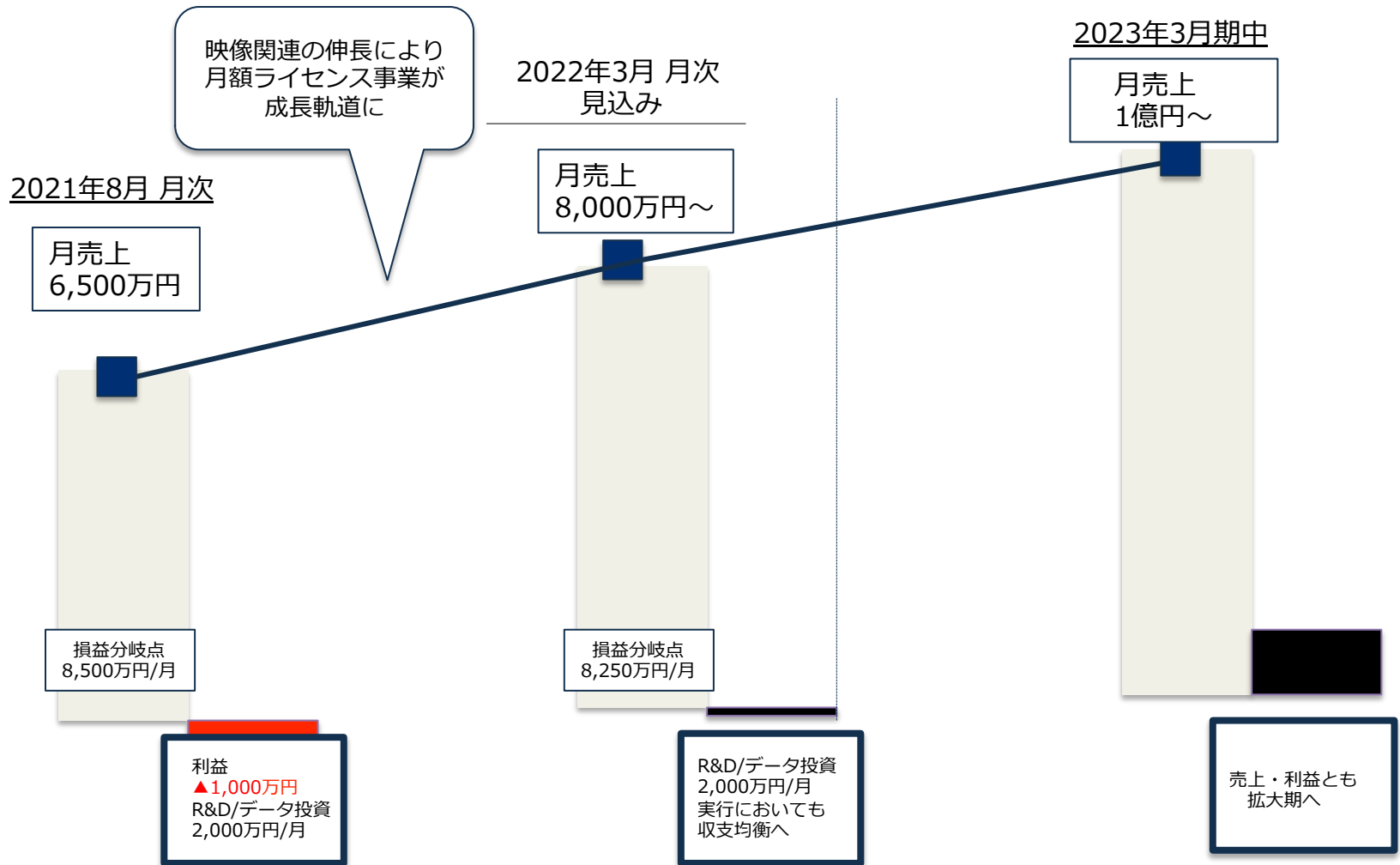
ライセンス数、ようやく増加ペースが上がる

ただし、計画の月額10-20万円程度の小規模モデルの進展進まず、月額100万円前後の中規模モデルの案件が多く、目標の65には届かず



✓ 積極投資を継続のうえ

2022年3月次に単月黒字基調へ、2023年3月期が増収増益の反転期のはじまりに



✓ 営業活動によるキャッシュ・フローはプラス

※非資金損益項目の影響あり

(単位：百万円)

	当期 4月-12月	
営業活動によるキャッシュ・フロー	15	◇ 売掛金の回収
投資活動によるキャッシュ・フロー	16	◇ 投資有価証券売却
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲7	◇ 配当金支払
現金及び現金同等物の増減額	25	
現金及び現金同等物の期末残高	819	

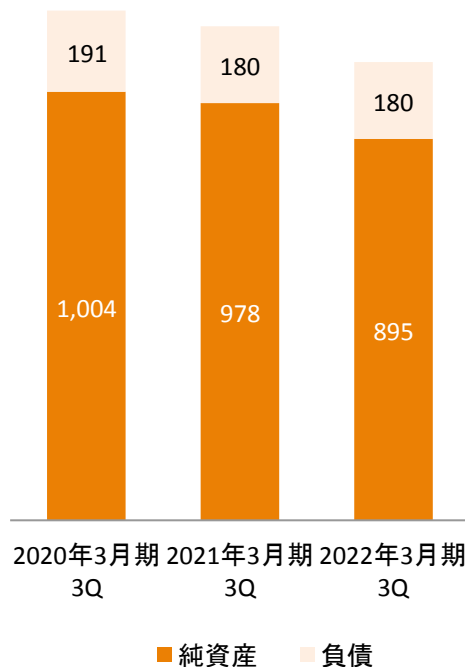
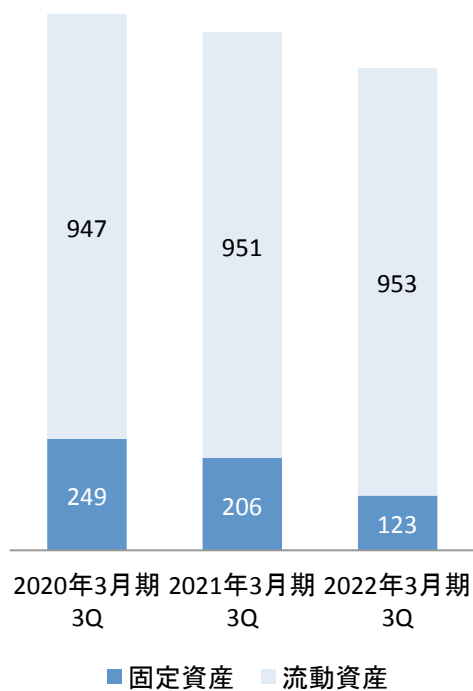
【参考】非資金損益項目

減価償却費（1,431万円） 株式報酬費用（662万円） 固定資産除却損(4,182万円)

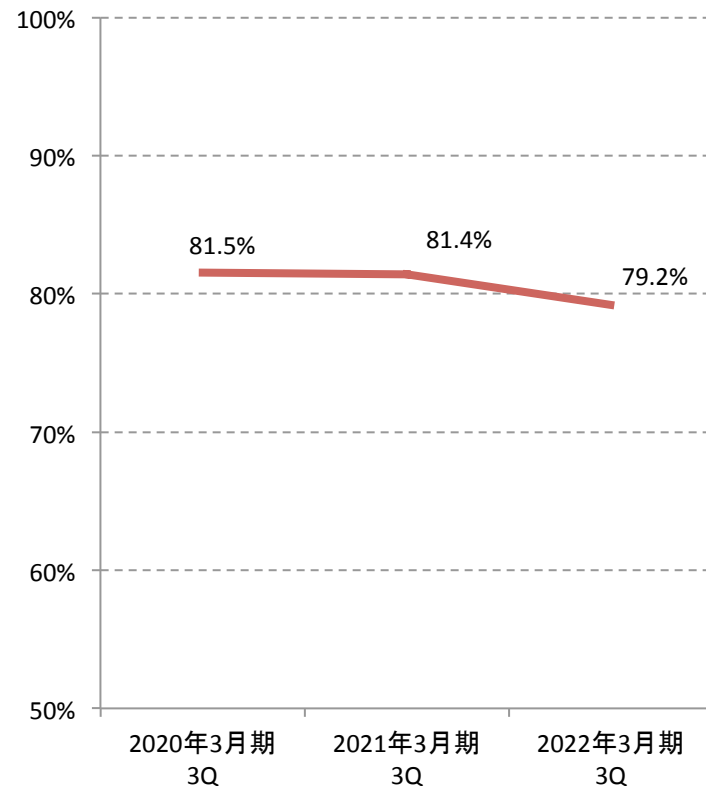
- ✓ 無借金、自己資本比率 79.2%
- ✓ 財務バランスを活用した機動的な企業提携を検討

BS推移

単位：百万円

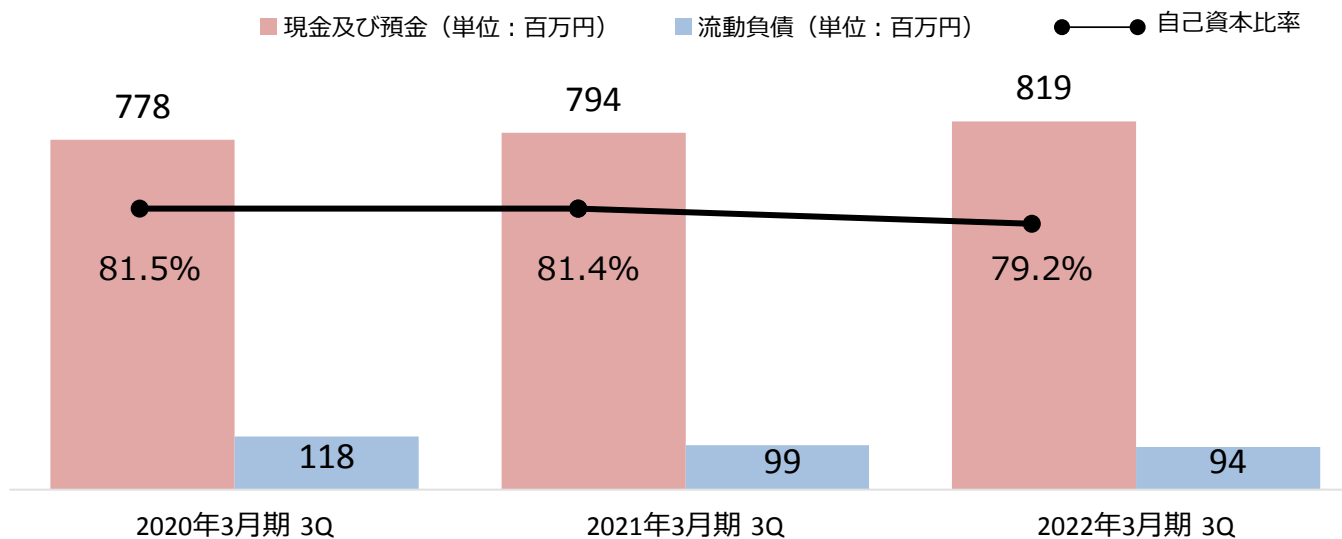


自己資本比率



第3四半期決算ハイライト

- B/S さらに筋肉質なバランスに

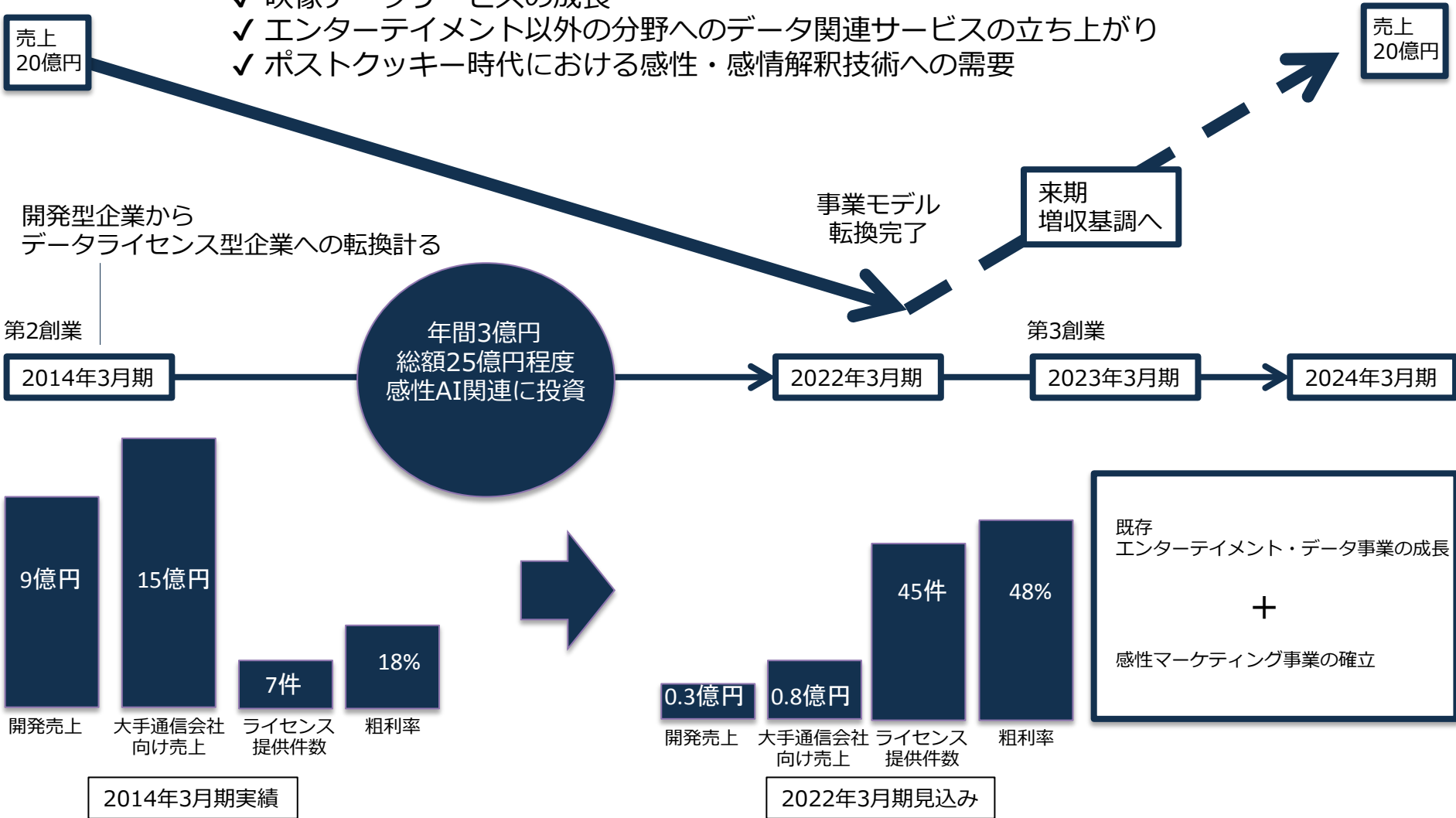


(単位: 百万円)	2022年3月期 3Q	2021年3月期 3Q	前年同期比	2022年3月期 2Q	前四半期比	備 考
流動資産	953	951	0.2%	999	▲ 4.6%	※固定資産の減少について
現金及び預金	819	794	3.1%	851	▲ 3.8%	ソフトウェア仮勘定として資産計上していた開発中の一部
固定資産	123	206	▲ 40.3%	165	▲ 25.5%	タイトルに関して、開発計画の変更に伴い、2022年第3
総資産	1,076	1,158	▲ 7.1%	1,164	▲ 7.6%	四半期決算において除却処理を行いました。
流動負債	94	99	▲ 5.1%	112	▲ 16.1%	(特別損失として固定資産除却損 41百万円を計上)
固定負債	86	80	7.5%	88	▲ 2.3%	

来期以降の展開について
 -来期が売上反転（V字）期の元年に

成長軌道の背景

- ✓ 映像データサービスの成長
- ✓ エンターテイメント以外の分野へのデータ関連サービスの立ち上がり
- ✓ ポストクッキー時代における感性・感情解釈技術への需要



	当社における来期以降	市場性
既存主力事業にて黒字・成長へ	<p>音楽データサービス</p> <p>従来の主力事業、基盤強化とともに、ショートムービー系、クロスメディア系、コンテンツマーケティングなど新用途開発により、再成長へ</p>	<p>【音楽サブスク市場】 2021年およそ650億円から2025年には1,000億円規模に (RIAJ調査レポートより推計)</p>
	<p>映像データサービス</p> <p>音楽分野と同規模まで成長へ アニメ関連データなど国産独自データの拡充およびレコメンド機能により、さらなる成長加速へ</p>	<p>【映像SVOD市場】 2021年およそ3,500億円から2025年6,000億円規模に (GEMパートナーズレポートより推計)</p>
新規事業にて成長速度をさらに向上へ	<p>クッキーレス感性ターゲティング広告</p> <p>ポストクッキー時代に向けた独自の感性AIを活用したインターネット広告サービスを展開へ</p>	<p>【インターネット広告】 2021年2兆4,300億円から2025年には3兆2,700億円規模に (矢野経済研究調べ)</p>
	<p>非エンタメ感性メタ提供サービス</p> <p>マーケティングDX、クッキーレスなどを背景にファーストパーティデータ（各企業の自社データ）拡充に向けた業種業界別リッチメタの提供</p>	<p>【デジタルマーケティング関連】 2020年4,305億円から2025年6,102億円に (IDC Japan調べ)</p>

他に類のない感性・感情解釈
機能を実現する独自サービス

エンターテインメントデータサービス

クッキーレス感性ターゲティング広告サービス

非エンターテインメント向け感性メタデータサービス

人の感性（ナレッジドリブン）
とデータ（メタドリブン）
の融合を実現する
独自ソリューション

独自
データ開発

レコメンド

アナリティクス

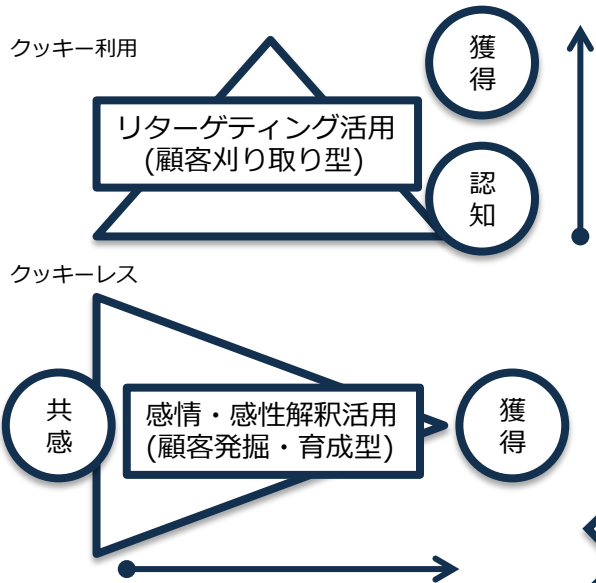
創業来 開発・蓄積
のコアデータ・技術

感性AI

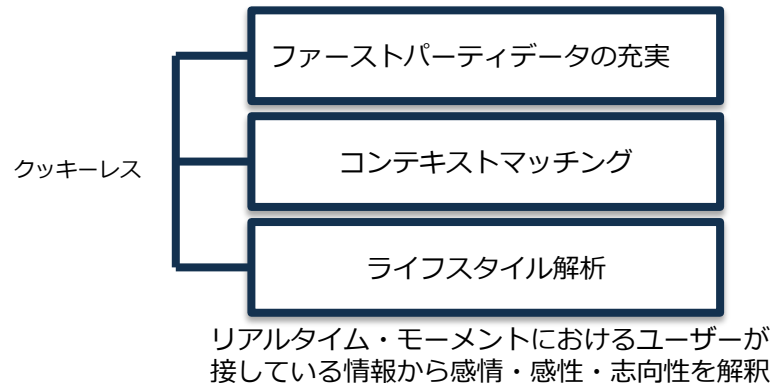
感性辞書

感性メタ

1 ポストクッキー時代に多様化する 潜在顧客（ミッドファンネル）獲得手法

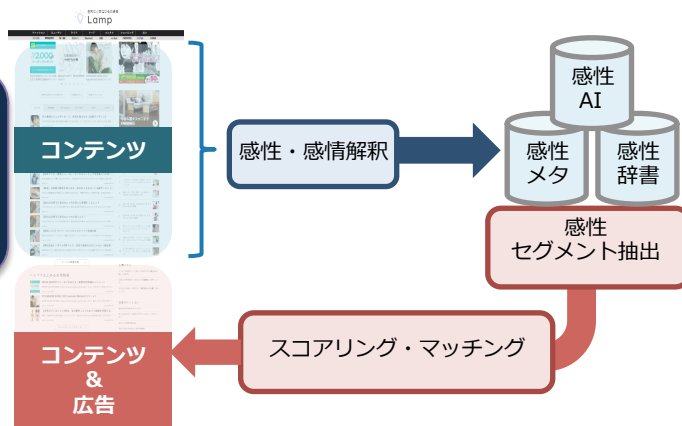


2 重要な技術としてクッキーを使わずに その瞬間の興味関心を捕捉し、顧客を醸成



これらを実現する
感性AI

インターネット広告市場2.4兆円
ディスプレイ広告シェア33% 約8,000億円
クッキー利用の行動・属性・リターゲティング広告の一部が、クッキーレスの顧客発掘・育成型の感性ターゲティング広告にシフトと推定した場合、8,000億円のうち10%と仮説をおくと800億円の市場が生まれうる



専門分野別キュレーションメタ

コンテンツクラスタリング

感情・感性・ライフスタイル マイニング

スコア評価による強化学習

☑ エンターテインメント領域(音楽/映画/アニメ/書籍/コミック)で20年のデータ開発・経験を活用

データサービス実績 (一部) ※弊社HPより転載掲載順：順不同



☑ 日本語ならではの繊細な感性や感情をデータ化

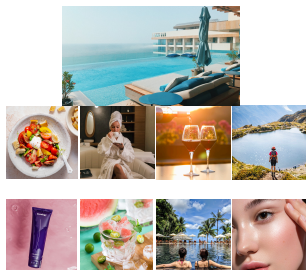
☑ 感性や感情を解釈する感性メタデータを活用した独自のレコメンドエンジンを開発

☑ 感性メタデータで「潜在意識」「感情動機」「想い」「ライフスタイル」等を解釈



01
肌もカラダもココロも、
うるおう

タイムレスなみずみずしさ



エンターテインメント領域でのデータ・学習を活かし、
ファッション、美容、グルメ、旅行、インテリアなどデータ生成
範囲を拡大

2022年春、文脈を感情・感性で解析する
新しい広告サービスをローンチします

2022年3月1日 クッキーレス感性ターゲティング広告サービス オープントライアル・リリースへ



リリース予定：2022年3月1日（火）午前10時～

初期参加クライアント：ナショナルクライアント10社様

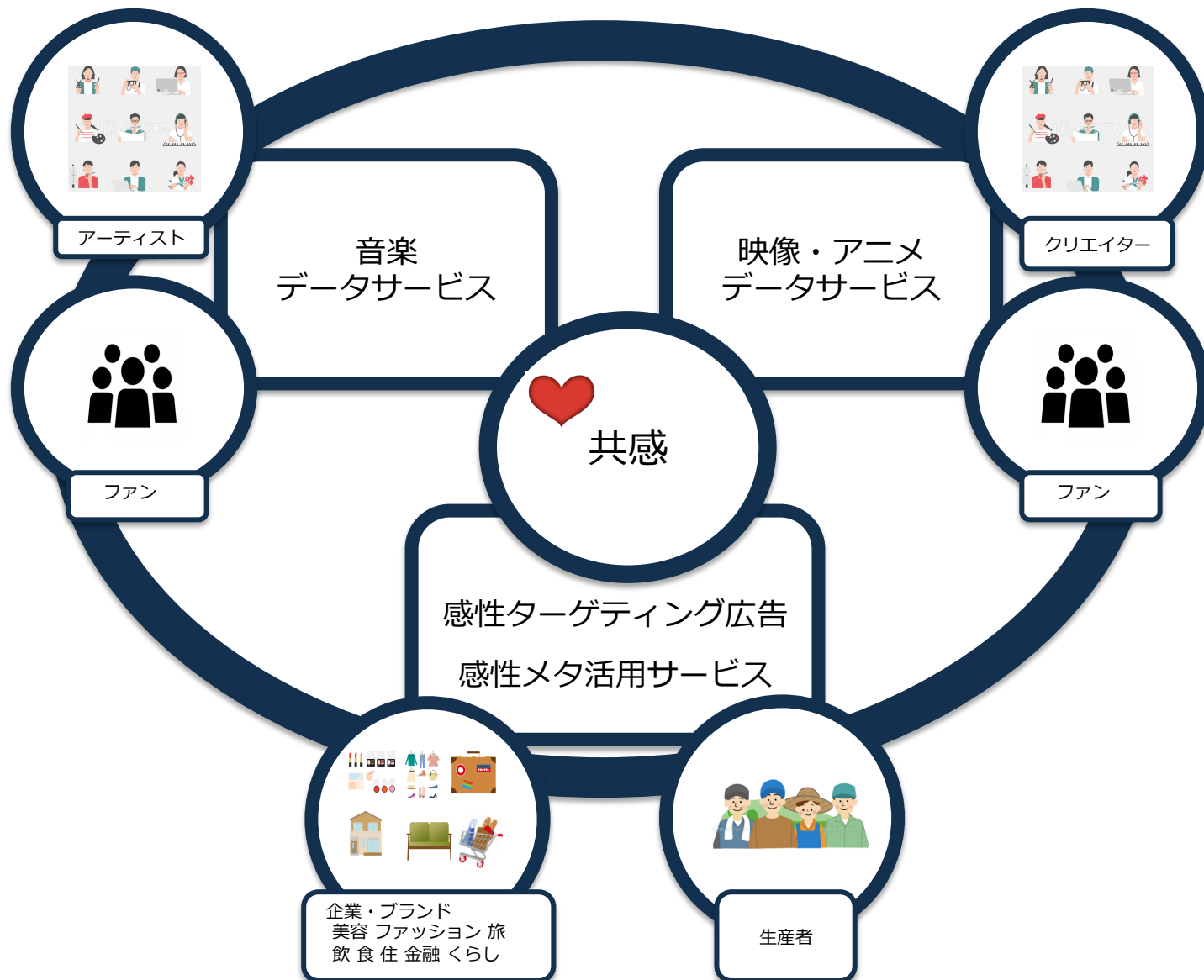
- ・ファッション
- ・食品
- ・飲料
- ・美容
- ・旅行
- ・金融
- ・暮らし
- ・エンターテイメント

各業界/業態ごと代表される1社様限定

媒体：インターネットメディア計9媒体

想定PV: 月間 50,000,000 PV

※その他情報は、別途、適時リリースさせていただきます



本資料における予想数値等は、発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

【お問い合わせ先】

株式会社ソケット

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目23番5号

窓口：コーポレートマネジメント室

Tel : 03-5785-5518 Fax : 03-5785-5517

E-mail : ir@sockets.co.jp